

1. 鉄道事業を取り巻く環境の変化

- 利用者の行動変容：デジタル化、働き方・ライフスタイルの多様化、コロナ禍に伴う3密回避、テレワーク、ワーケーション、MaaSやサブスク商品、持続可能な地域公共交通の実現、SDGsへの貢献 等
- 多様化する利用者ニーズへの対応：オフピーク定期券、セグメントに応じた運賃、地域が主体的に決められる運賃 等

2. 現行制度の課題

- 人口減少等の市場縮小局面においては、経営の自由度を奪い、発想を小さくさせている可能性
- 柔軟性を発揮できず、多様化する利用者ニーズへの迅速な対応や創意工夫を発揮した運賃設定が困難 等

論点①

3. 現行制度の検証

- 地域独占性の今日的な評価：航空や高速バスとの競争、デジタル化、働き方の多様化、公共交通全体の視点、モード間連携等の観点から地域独占性をどう評価するか
- 利用者利益の保護：社会的受容性、鉄道の公共性、透明性の確保、丁寧な説明、わかりやすさ等の視点が重要

論点②・③

4. 制度見直しの視点

- 鉄道運賃の基礎的考え方（費用に着目か価値に着目か）
- シンプルさ、利用者の納得感・公平性、セグメント毎の需要への対応、社会的効用
- 総括原価と総収入の関係、事前規制の緩和と情報公表・事後的是正措置、鉄道ネットワーク全体での支え合い、規制コスト 等

論点④

5・6. 制度運用上の課題

- 安全・サービス水準の高度化と現行制度におけるコスト算出等の課題：
 - ヤードスティック方式見直し、利用者や地域社会の求める安全・サービスレベル（セキュリティ対策、インフラ老朽化対策など）への投資インセンティブ、受益者負担 等
- 大規模災害や物価上昇など予見し難い変化への対応

論点⑤・⑥

7. 制度見直しに当たっての留意事項

- 各社の経営環境や事業構造を踏まえた制度適用のあり方、オフピーク定期券実施時のエッセンシャルワーカーなど利用者等への配慮、ICシステムの課題 等

主な論点一覧

制度面

論点①

- ① 利用者の行動変容・利用者ニーズの多様化を踏まえ、需要セグメントに応じた事業者の創意工夫によるサービス提供を可能とする制度とするべきではないか。

論点②・③

- ② 鉄道事業の地域独占性について、今日的な視点でどのように評価するか。
- ③ 地域独占性の今日的な評価を踏まえた制度の柔軟化と、事業者による説明責任と透明性確保等による利用者利益の保護の両立が必要ではないか。

論点④

- ④ 今後の運賃料金制度はどのようにあるべきか。

論点⑤

- ⑤ コスト効率化による費用抑制と必要投資の確保の両立を可能とする仕組みとするべきではないか。

論点⑥

- ⑥ 予見し難い社会経済状況の変化への対応を可能とする仕組みとするべきではないか。

運用面・その他